

会議議事摘録

会議名	2020年度第2回学校関係者評価委員会
開催日時	2020年11月29日(日曜日)10:00~12:00
場 所	本校406教室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：石川幹夫(卒業生)、伊藤由紀(高等学校関係者)、篠塚 功(医療事務関連業界関係者)、西村拓也(くすり関連業界関係者)、藤井寿和(福祉関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、(計6名)</p> <p>②学校：橋本正樹(校長)、宮下明久(事務局長)、小田真理子(キャプションライター養成科学科長)、村山由美(医療秘書科学科長・医師事務技術専攻科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、三宅かおり(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)、熊谷崇(介護福祉科教員・教務委員長)、宮嶋貴与(鍼灸医療科学科長)、前田律子(看護科担当副校長・学科長)、伊東由美(看護科副学科長)(計12名)</p> <p>③事務局：松本晋圭、土屋瑠美子(委員会事務局)(計2名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計20名)</p>
欠席者	赤塚敦子(看護関連業界関係者)、磯田眞美(保護者)
配付資料	<p>①事前送付：</p> <p>□資料1：2020年度第1回学校関係者評価委員会議事録、□資料2：2020年度第1回委員会以降の主な経過報告 別添A：2020年度進路決定状況、別添B：2021年度生学生募集状況、別添C：2020年度教員研修計画・実績、別添D：2020年度授業公開実施要領、別添E：2020年度生入学前指導プログラム、別添F：2020年度前期授業アンケート集計結果、□資料3：2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告(中間点検)、□資料4：2020年度重点目標の取り組み状況報告(中間点検)、□資料5：2020年度学校関係者評価報告書(案)</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>新型コロナウイルスは世界規模で第2波、第3波と拡大しているが、本校の教育活動は、6月に分散登校、7月から全面的に登校しての授業を開始し、今のところ1人の感染者も出さずに進んできている。後期は、一部の学科では週1日オンライン授業の日を設け、状況によっては全面的にリモートに切り換えるなど、柔軟な対応を考えている。</p> <p>実習については、一部中止、延期の状況が続いている。厚生労働省系の国家試験学科のうち、鍼灸医療科は無事に年度内の実習を終えた。看護科は、3年生の実習は12月で終了するが、年明けの1、2年生の実習は学内実習になる。介護福祉科は、実習先の施設がクラスターに敏感になっており、卒業年次の2年生を優先させて何とか進めている。医療事務系学科については、今年度は3週間の事務実習を予定していたが、残念ながら中止とした。希望者には1週間の体験実習を設け、希望しない人は代替授業で単位を取得するように、現実に対応しながら進めている。</p> <p>本委員会の委員の皆様には、外からの目でサポート的なご意見をいただければと思っ</p>

ている、との挨拶が行われた。

2. 前回委員会議事録の確認（説明者：保坂委員長）

前回議事録（資料1）について訂正等の意見がなかったため、所定の手続きを経て議事録として公開することが確認、了承された。

3. 経過報告（説明者：宮下事務局長、熊谷教務委員長、事務局松本）

2020年度第1回委員会以降の主な経過について、各担当者からの報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

4. 2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）

各担当者が記入した中間点検の記述に対して、全体を通して追加コメント、質問・意見をいただく形で進化した。委員会からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

5. 2020年度重点目標の取り組み状況報告（中間点検）

橋本校長より重点目標の取り組み状況について中間報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 2020年度学校関係者評価報告書案について

学校関係者評価報告書案の内容について資料5に基づき意見を求めたが、委員からの修正・追加は特になく、本日の委員会に出された意見の追記及び総評を付記して報告案を作成することが確認、了承された。各委員の総評は別紙のとおり。

7. 意見交換など

介護、くすり・調剤事務の分野から、業界の現状や求める人材について意見をいただいた。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他

事務局より、次回は3月中旬～下旬を予定している。改めて都合を伺うので回答をいただきたいとの報告があり、確認、了承された。

以上

2020 年度第 2 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 経過報告

○宮下事務局長、熊谷教務委員長、事務局松本より資料 2 に基づき、以下の報告が行われた。

1. 学生の状況関連（説明者：宮下事務局長）

(1) 退学の状況

(2) 2020 年度進路決定状況（別添 2 - A 参照）

- ・求人数は前年に比べて減っているが、職種別で見ると病院事務系の求人数は前年比 111.4%と増加している。特に医師事務作業補助者、調剤事務が増えている。
- ・主な内定先は例年いただいている大規模病院を中心に決定している。

2. 学生募集関連（説明者：宮下事務局長）

(1) 2020 年度生募集状況（別添 2 - B 参照）

- ・コロナの関係で進路選択が遅れている高校生に対して、特別減免制度や奨学生入試、特待生入試の追加日程を設けて救済措置を考えている。

3. 教務委員会関連（説明者：熊谷教務委員長）

(1) 2020 年度教員研修実施計画・実績（別添 2 - C 参照）

- ・前回以降、追加または中止になった研修を備考欄に示した。

(2) 2020 年度授業公開実施要領（別添 2 - D 参照）

- ・新型コロナの感染状況に弾力的に対応できるような体制で準備した。
- ・従来、一定期間を設定して実施してきたが、今年度は後期授業期間全般を設定した。
- ・兼任教員の授業公開は任意としている。
- ・オンライン授業を含め、すべての授業を公開対象としている。
- ・授業参観、授業公開後はレポートを作成し、インストラクションスキルの向上につなげている。

(3) 2021 年度入学生入学前指導プログラム実施要領（別添 2 - E 参照）

- ・出願許可通知から入学までに課題の提出とスクーリングによる入学前指導プログラムを実施し、入学後の学習や学校生活に向けてモチベーションを高めることを目的としている。
- ・前年度は新型コロナの関係で中止したが、2021 年度は 3 月に予定している。
- ・内容はスクーリング I、スクーリング II の 2 部構成で、所要時間は 3 時間程度となる。

4. アンケート関連（説明者：事務局松本）

(1) 2020 年度前期授業アンケート（資料 2 - F 参照）

- ・今年度よりウェブによる方式に変更した。各教員への集計報告も紙ではなく、ウェブで確認してもらう形に変わっている。
- ・結果のフォロー コメントシートに記述するが、今回、提出は任意とした。
- ・設問項目は自己点検・自己評価委員が検討し、決定している。3 年ごとに見直しを行っているが、今回、ウェブ化と重なり、大きく変更した。

5. 職業実践専門課程関連（説明者：事務局松本）

(1) 教育課程編成委員会を資料記載の日程・内容のとおり実施した。

6. その他（説明者：事務局松本）

※高等教育の修学支援新制度（通称無償化）について

- ・2021年度について、9月に継続認定された。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>・一度退学の意向を申し出てきた学生を翻意させることは難しい。昨年実施した担任及び退学防止対策担当間での意見交換会が、今年度は検討中とある。ぜひ実施して、対応の仕方などを共有していただきたい。</p> <p>・授業アンケート結果について。 ①結果の回答比率を円グラフで示してもらえると分かりやすい。 ②4段階評価を明確にして、高い評価であることが分かるようにしたほうがよい。</p> <p>・コロナ禍の中で、在校生（進路）、高校生（募集）は不安を抱えていると思う。その辺の実態と、どのようなフォローをしているか伺いたい。</p>	<p>・学校を理解し、学びの目的を持った学生に入ってもらうことが大事。次年度に向けて再編した医療事務系の学科では、1年次が終わった時点で転科できる仕組みとした。</p> <p>・①これまでは棒グラフで示していたが、今回から新しい業者に変えた。タイミングを見て検討したい。 ②タイミングを見て検討したい。</p> <p>・CSCと相談しながら、焦らず、本意の道に進むように指導している。 ・鍼灸医療科は、2月の初めにある国家試験を終えてから就職活動をするのが通例で、今、学生は国家試験を目指して頑張っている。昨年の卒業生の中には、予定していた面接が中心になったり、治療院から試験を遅らせてほしいと言われるなど、コロナの影響が出ていた。業界の話を聞くと、免疫力や予防医学の観点から鍼灸が着目され、大手では人を必要としているそうなので、期待は持っている。</p>

次第4. 2019年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み状況報告（中間点検）（資料3参照）

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>・オンライン関係で2点伺いたい。 ①オンライン授業によって、授業のスピードは追いついているか。 ②家族間でWi-Fiの取り合いになったり、通信環境が悪くて困ったという学生はいなかったか。</p>	<p>・①週に1回行っているが、予定どおりに進むのがオンライン授業のよいところで、オンラインであろうと対面であろうと授業の進行には何の影響もない。 ②個別にWi-Fiルーターの貸与をしているが、思ったほど貸し出しは増えていない。学生が自分たちでそろえる方向で何とかやっているのかと思う。</p>

<p>・前期の6、7月の検定試験が全部中止となったが、一回チャンスを逃したのは学生にとっては大きい。11月、12月の検定の結果次第だが、卒業生支援講座をオンラインで実施して、来年6月、7月にチャンスを与えられるとよい。</p> <p>・今はオンラインと対面の授業を並行しているが、オンラインだけのときに、学生とのコミュニケーションを取るのに支障があるか。</p> <p>・関連業界との連携強化のところで、実習の代替授業を開発する過程において、複数の医療機関から有用な多くの情報を得ることができたということだが、その具体的な中身を教えてください。</p>	<p>・ご意見として承った。</p> <p>・オンライン授業では必ずフィードバックすることがルールになっているので、講義後にミニテストを送信してすぐ確認したり、チャット機能を利用して質問にその場で回答ができたり、コミュニケーションには支障はない。効果は今年1年のすべての検定試験、認定試験の結果が出てから検証したい。今後は、オンラインと対面のそれぞれのよさを生かしながら共存していくものと思う。</p> <p>・病院に、従来どのような実習を行っているか、コロナ対策なども含めた病院の状況、卒業生（クラーク、医師事務作業補助者、診療情報管理士等）に、現在の仕事内容や実習で得られたことなどをインタビューするビデオ教材を作成した。学生はそれを視聴し、与えられた課題に対してGoogleフォームで回答することで、単位を取得する形になる。教員は撮影に伺う中で、現在の医療機関の状況を直に伺い、最新の知識、情報を得られた。</p>
--	--

次第5. 2020年度重点目標の取り組み状況報告（中間点検）（資料4参照）

○橋本校長より、今年度の重点目標と、その達成のための取り組み状況（中間点検）について以下のとおり報告があった。

※重点目標自体は昨年と同様だが、コロナ禍における変化にどのように対応していくかに注力した。

①TPCの育成と強化

・オンライン授業が進み、一方的な講義による知識伝達型授業からの脱皮が実現しつつある。演習型の授業や学生に考えさせることにオンラインは有効であり、コロナ禍がおさまってもハイブリッド型の教育（対面型とオンラインの併用）を進めていきたい。今回の実習代替授業のように、動画を見た上で、それをもとに討論するような反転授業も活用していきたい。

②学び直し等の教育プログラムの開発

・再進学者（社会人、大学生等）を対象とした教育、外国人留学生向けの学びの道筋をつけることを進めている。

③ビジョンの共有とアクションプランの策定

・コロナ禍という非常事態の中で、本校の教職員はとてもよくやってくれた。危機は組織の結束を高める機会でもあるので、前向きな力に変えて進めていきたい。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>・オンラインはインターンシップや一部大学の授業等でも使っているが、相手の理解度のチェックがポイントではないかと思っている。</p> <p>・今、介護現場においてもオンラインが入ってきて、新しい変化に柔軟に対応できる力が求められている。外国人人材に学生のうちから慣れている方や、逆に日本人と一緒に学ぶ留学生は現場力が強くなると思うので、介護現場でも必要とされる人材になっていくと実感している。</p> <p>・医療事務系学科の再編は本校にとってかなり重要なことだと思う。学校全体でその意義を共有しているか。</p> <p>・募集へのつながりという面ではどうか。</p>	<p>・ご意見として伺った。</p> <p>・ご意見として伺った。</p> <p>・共有はできていると思っている。</p> <p>・これまで医療事務の2年制の学科が2つあり、違いが分かりにくかったが、より明確になったと思う。</p>

次第6. 2020年度学校関係者評価報告書案について（資料5参照）

○各委員の総評

・新型コロナウイルス禍が学校運営に大きな影響を及ぼす中で、フレキシブルに対応している。今回得たノウハウを学生、教職員にとって有益な形で生かしてほしい。

・東京都はパソコンを教員1人ずつに与えてはいるが、外部につなぐことを禁じている。そのため、新型コロナウイルス感染症禍への対応は遅れた。日比谷のような高校は動きが早かったが、本校も大変な努力をしてオンライン授業をされたことをひしひしと感じる。新型コロナウイルス禍でも遅れることなく、しっかりと教育ができていたことは、募集対策の上でも強みになると思う。

・計画を立て、課題を明確にして一つ一つ対応しているのは素晴らしい。アンケートの結果も肯定的な意見がほとんどで、どの授業もきちんと行われていることが分かる。

・新型コロナウイルス対策も非常に早い時期から対応して、オンライン授業も進めている。対面とオンラインそれぞれの良いところを把握して、今後に繋げようとしている点も素晴らしい。

・オンラインは物理的な距離がなくなるため、今まで検討してきた社会人を対象とした教育も行いやすくなる可能性がある。募集に繋げることを期待したい。

・新型コロナウイルス禍において、制度や変化に対応しきれなかった企業等が多かったと思われる中で、しっかりと対応したことがよかったと思う。

- ・一つ一つ予定を立てて、中間で見え、報告をして評価していくことは大きな意味がある。資格についても、例えば介護福祉士の資格だけではなく、外部の民間資格も取り入れる動きをされていることは、世の中のトレンドをしっかりとつかんだ取り組みであり、そこは学校の売りになる面でもあると思う。実際に介護現場で働いている側として、学校の皆さんがすごく努力をされていることを知らなかった。努力していることをもっと発信し、伝えていただく取り組みをすると、採用やその後の受け入れ方が変わると思う。
- ・PDCAがしっかりできているところが素晴らしい。
- ・新型コロナウイルスへの対応については、変化に対して革新的に、スピード感を持って適応できている部分がよかったと思う。今後は質の部分上げて、より充実した教育になるようにしていただきたい。
- ➡本校は、医療系の学校としての実績、伝統が一番の強みだと思うので、募集の際は自校の強みをアピールし、「医療系なら早稲田速記」という評価をきちんと確立するように頑張ってもらいたい。
- ・コロナ禍の中で、オンラインと対面のハイブリッド型授業を進めていくと思うが、オンラインを使った授業をいかに工夫するかが大事なポイントだと思う。また、その工夫を授業公開等で共有し、学校全体が一つになっていくとよいと思う。

7. 意見交換など

※業界の現状及び求める人材について意見を伺った。

○一般企業の採用活動の早期化が進み、2022年卒の特に四大卒の学生はもう内々定をもらっている人もいます。今までどおりの就職活動のスピード感でやっていると、締め切られたり、他の学生に負ける可能性もあるので、採用の流れを一度整理していかなければいけないと感じている。

○時代の流れが早いので、変化を察知する能力、適応力が必要。介護・福祉の分野は年功序列ではなく実力主義なので、20代で事業所の所長になることもできる。今は在宅にシフトしているので、介護職員も例えば訪問介護からスタートする形も考えられる。また、法人単位で完結する医療・介護ではなく、法人と法人が手をつないで地域で連携していくところが出てきたので、コミュニケーション能力が大事である。また、介護福祉士の意見を聞いてくれる在宅医療のドクターが増えてきた。介護福祉士がしっかりとした知識を持って、意見を言えるような人材が求められていると感じている。

以上